

AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

TOP INTERVIEW

秋田製錬 株式会社
代表取締役社長 福田 健作氏



1966(昭和41)年秋田市生まれ。金沢大学工学部卒業後、1992(平成4)年4月に同和鉱業(株)(現DOWAホールディングス(株))入社。直ちに秋田製錬(株)に出向し様々な業務に取り組む。その後、DOWAメタルマイン(株)製錬技術研究所所長、秋田ジンクリサイクリング(株)代表取締役、DOWAホールディングス(株)技術部門、DOWAメタルマイン(株)取締役亜鉛事業部長を経て、2022(令和4)年4月より現職。その間2017(平成29)年10月にビジネス・ブレークスルー大学大学院経営学研究科(専門職)修了。

若き日のプロジェクト経験がその後の可能性を大きく広げてくれた

工藤 いつもお世話になります。素人質問恐縮ながら、事業の中心は「亜鉛」とのこと。具体的に亜鉛にはどのような用途があり、我々の生活にどのように活かされているのでしょうか？ぜひ少し教えてください。

福田 鉄の防錆のための亜鉛メッキが主要用途です。ですから自動車などはもちろん、多くの金属製品や機械製品にたくさん使用されています。亜鉛は精密加工がしやすい性質があり、ミニカーなどのおもちゃ、アルカリマンガン電池、少し変わったものだと日焼け止めにも使用されるなど、多用途で我々の生活に使用されています。

工藤 ありがとうございます。おかげでイメージができましたが、ただ亜鉛が日焼け止めに使用されているのは驚きですね!?

福田 酸化亜鉛で作られる日焼け止めは無機系と呼ばれ、肌に優しいとされています。一方の有機系は欧米で肌への影響や海洋汚染への指摘から使用をためらう風潮もあるようです。

工藤 なるほど。面白いですね。やはり秋田県の鉱山資源が会社のルーツでしょうか？

福田 そうですね。秋田には黒鉱があります。現在は鉱山が閉山してしまいましたが、弊社も黒鉱を用いた亜鉛製錬所としてスタートしています。

工藤 さて福田社長のご経歴をお聞きした中で、もともとは技術者として入社したのち、数年後に子会社の立ち上げに関わったと

いうキャリアがとても気になりました。これはどういった経緯だったのでしょうか？

福田 自分からこれがやりたいと思って始めたわけではなく、当時は経営が伸び悩みの中で、新商品開発・新事業開発・経営や組織の健全化など、様々な課題が複雑に重なる中での新会社設立のプロジェクトだったのだと思います。まだ若かったこともあり、当時はうまくいかないことばかりで、プロジェクトの推進は色々大変でした。苦しかったこともたくさんありました。特に従業員の雇用を維持することの難しさや大切さを身に染みて感じさせられました。でも若いうちにこの経験ができたことは、私にとっては非常に深い経験になったと思っています。

工藤 プロジェクトでの経験がご自身の経営で大切にされている基礎につながっていったのですね。大学では理系の分野を学んでいらっしゃるからお聞きしていますが、プロジェクト経験がきっかけで、技術者から経営の道に転じたということでしょうか？

福田 難しい質問ですね。確かにプロジェクトでの経験が根底にあると思いますが…。理系の大学を卒業し、技術職として就職しましたし、プロジェクト終了後も技術者として知識や技術を付けるつもりでいました。ただその後社内であるプロジェクトの企画書を目にした際に、このプロジェクトはこのままでは絶対に上手くいかない! と思い、私なり

に会社に改善を提言しました。するとそのプロジェクトに参画することになってしまい、なぜか後にその事業のマネジメントも任されることになりました。この頃から技術職よりマネジメント職の比重が高まったように思います。ただ当時は経営の知識やマネジメントのノウハウがなかったので、何とかして知識を付けなくてはと思っていました。

工藤 なるほど。過去の経験が次の点に結び付くわけですね。その後どうやって経営やマネジメントのノウハウなど知識を身につけたのでしょうか？

福田 ちょうどその時、会社の経営や管理職用にビジネスリーダー研修が用意されており、それに積極的に参加させていただきました。研修を受け学んでいくうちに、どんどん経営が面白いと思うようになり、それがきっかけで45歳からビジネス・ブレイクスルー大学、いわゆるMBA(経営学修士)のスクールにも働きながら通いました。

工藤 私もMBAは1単科だけ取得しましたが、本科取得は相当な時間と労力だったはず。その多忙な状況での卒業は尊敬しかありません。すごいですね。話は変わりますが、昨今の社会環境の変化などによる経営への影響などお聞きしてもよろしいでしょうか？

福田 直近の大きな課題は電気代の高騰です。亜鉛鉱石から亜鉛を製錬する過程では、電気分解を応用した電解製錬を行うため、

あきたBizフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

大量の電力を消費します。ですから電気代高騰は深刻です。

工藤 大打撃ですね。電力というと、最近では再生可能エネルギーを連想しますが、秋田は洋上風力発電に力を入れています。電気代問題は長引くと予想しますか？

福田 まずは節電等の地道な対策をしていますが、現状を考えると我々だけでは解決しにくい問題です。ただエネルギー資源に関して秋田は宝庫でもあります。ですからできるだけそれをうまく活かす方法を考えなくてはならないと思っています。特に発電事業に関しては秋田県外の事業者を挟まずに、秋田県内で電力を地産地消することで資本の流出を防ぐとともに、地元企業の経済的効果も生まれるものと思います。これからの法整備や仕組みづくりなどで良くなることに期待しています。

工藤 法整備に期待したいですね。さて福田社長は秋田市出身ということですが、秋田で事業を行うメリットなど、感じていることがあれば教えてください。

福田 秋田で事業を行なうメリットは2つあります。まずは秋田の人の優しい人柄です。我々のグループ会社は県内にも多くありますが、これまで事業を継続できたのは秋田の

人々の優しさとお陰だと考えています。何かを始めたいときに、その分野に詳しい人をすぐに教えてもらえ、また紹介してもらえます。もう一つは秋田に鉱業の歴史があることです。弊社では亜鉛鉱石の製錬で世界唯一のヘマタイト法を用いた製錬を行っております。これは鉱石に含まれる亜鉛を残さず、無駄のない製錬を行うことができます。そのみならず、鉱石に弊社では製錬できないレアメタル、銅、鉛、金、銀、錫などが含まれる場合は、県内のグループ会社で回収します。現在は鉱山が稼働していないですが、黒鉱の歴史が培った技術があつてこそ、県内で無駄なく金属の製錬が行えていると思います。

工藤 なるほど。秋田のメリットは人の優しさで地元根差した産業の歴史とそれにより培った高い技術ということですかね。先程の風力もいつの日か鉱山のように秋田

産業の歴史になればいいですね。そして県外出身の私ですが、こうして本日福田社長に貴重なお時間をいただけたのも、まさに秋田の人の優しさですね。本当にありがとうございます。

「思うようにうまくいかない」それが魅力

最後に、福田社長のご趣味を教えてくださいました。福田社長の趣味はゴルフだそうです。休日を利用して、奥様やご友人、社員さんなどとゴルフを楽しんでいるそうです。ゴルフの魅力は「思うようにうまくいかないところ」と語っており、ここでも福田社長らしいストイックさが伝わってきます。「もっとうまくやりたい一心ただそれだけ」と、おっしゃっていますが、福田社長がもつ「何事にも努力の精神」がしっかり垣間見えた時間でした。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー
合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター 秋田大学 小林恵子さん
企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)

